

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分  
 【発行日】令和 5 年 8 月 2 日(2023.8.2)

【公開番号】特開 2022-35363(P2022-35363A)  
 【公開日】令和 4 年 3 月 4 日(2022.3.4)  
 【年通号数】公開公報(特許)2022-039  
 【出願番号】特願 2020-139616(P2020-139616)  
 【国際特許分類】

*F 1 6 F 15/129(2006.01)*

10

*F 1 6 F 15/127(2006.01)*

*F 1 6 D 13/64(2006.01)*

【F I】

F 1 6 F 15/129 C

F 1 6 F 15/127 A

F 1 6 D 13/64 A

F 1 6 D 13/64 G

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 7 月 24 日(2023.7.24)

20

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 5】

前記摩擦部材は、前記第 1 弾性部材の前記第 1 回転方向側の端面に当接する第 1 当接部と、前記第 2 弾性部材の前記第 2 回転方向側の端面に当接する第 2 当接部と、を有している、

請求項 1 から 4 のいずれかに記載のダンパ装置。

30

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【特許文献 1】特開特開 2002 - 372101 号公報

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

40

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0049】

4 つのストッパ用突起 42b は、フランジ 42 の外周面から径方向外方に突出して形成されている。各ストッパ用突起 42b が形成された位置は、各収容部 401, 402 の円周方向の中央部の径方向外方である。そして、入力側プレート 30 とハブフランジ 40 とが互いに相対回転した際に、ストッパ用突起 42b が第 1 プレート 31 のストッパ部 31a に当接することにより、入力側プレート 30 とハブフランジ 40 との相対回転が禁止される。

【手続補正 4】

50

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0097

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0097】

図17は、振り角度1°から中立状態に移行した状態を示している。ここでは、入力側プレートIPは摩擦部材FPとともに、中立状態に戻り、この間は、ヒステリシストルクは発生しない。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

10

【補正対象項目名】0101

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0101】

(a)前記実施形態では、ヒス発生機構の摩擦部材として、第1ブッシュ61とフリクションプレート64とを設けたが、第1ブッシュにフリクションプレートの機能を設けることによって、フリクションプレートを省略することができる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

20

【補正対象項目名】0103

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0103】

(c)前記実施形態では、すべてのコイルスプリングの剛性を同じにしたが、異なる剛性のコイルスプリングを用いてもよい。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0104

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【0104】

(d)収容部、支持部、及びコイルスプリングの個数は一例であって、前記実施形態に限定されない。

【手続補正8】

【補正対象書類名】図面

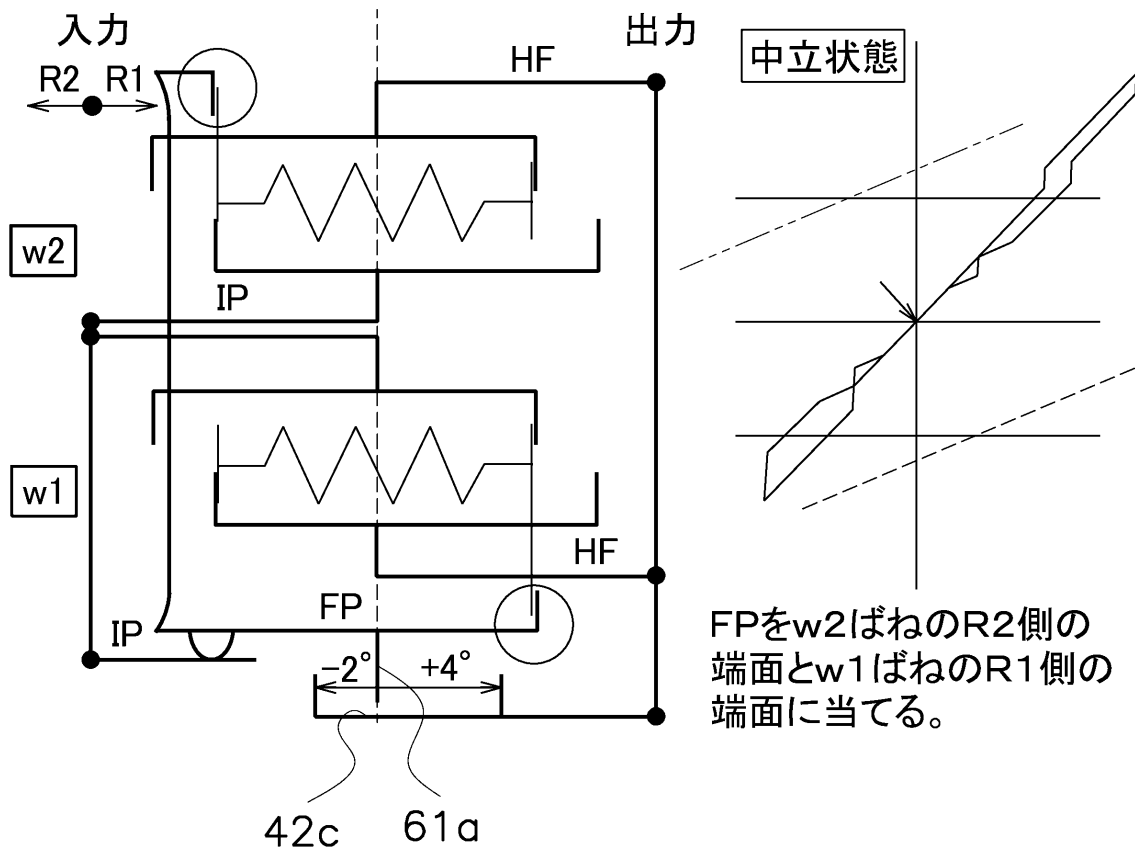
【補正対象項目名】図8

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

【 図 8 】



10

20

【 手続補正 9 】

【 補正対象書類名 】 図面

【 補正対象項目名 】 図 1 2

【 補正方法 】 変更

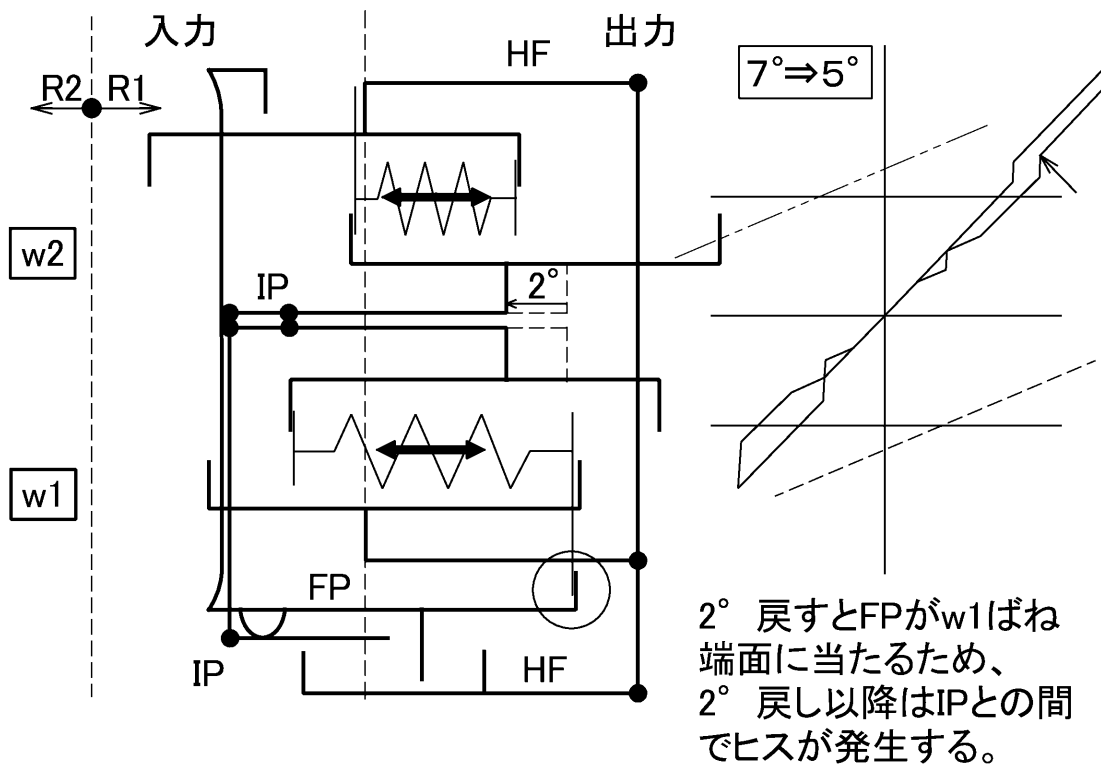
【 補正の内容 】

30

40

50

【図 12】



10

20

30

40

50